

## 数理統計 補助資料 ～多変量解析のための固有値分解～

2024年度2学期： 月曜1限, 水曜3限  
担当教員： 石垣 司

1

複数の変数から発生したデータを利用して、変数間の関係性を分析する手法の総称

- 可視化: データが含む情報を効率的に提示する手段
- 予測・分類: 未知データの予測や分類
- 仮説検証: データと計量モデルを用いて仮説の正しさを検証
- 発見: データ中に存在する(かもしれない)パターンを発見



本授業で扱う手法

- 線形重回帰分析, 主成分分析, 線形判別分析, ペイジアンネットワークなど

2

## 復習: 固有値と固有ベクトル

### 固有値問題

- $N \times N$ の正方行列  $A$  に対して, 方向を変化させないベクトルの組  $\{p_1, \dots, p_N\}$  とスカラーの組  $\{\lambda_1, \dots, \lambda_N\}$

$$Ap_i = \lambda_i p_i$$

を求める問題

- $\lambda_i$  を  $A$  の固有値,  $p_i$  を  $\lambda_i$  に対する固有ベクトルと呼ぶ

固有方程式  $|A - \lambda I| = 0$  の解は固有値となる

- 固有値が求まれば, それに対応する固有ベクトルも求まる

問題: 次の行列の固有値と固有ベクトルを求めなさい

$$A = \begin{bmatrix} 3 & 1 \\ 2 & 2 \end{bmatrix}$$

3

## 2次形式と行列による表現

2次形式: 変数の2次の項のみで構成される多項式

- $M$  個の変数:  $x = [x_1 \dots x_M]^T$
- $M \times M$  個の係数:  $A = \begin{bmatrix} a_{11} & \dots & a_{1M} \\ \vdots & \ddots & \vdots \\ a_{M1} & \dots & a_{MM} \end{bmatrix}$
- 多項式による表現:  $f(x_1, \dots, x_M) = \sum_{i=1}^M \sum_{j=1}^M a_{ij} x_i x_j = a_{11}x_1^2 + \dots + a_{MM}x_M^2 + \dots + 2a_{12}x_1x_2 + \dots + 2a_{(M-1)M}x_{M-1}x_M$
- 例:  $f(x, y) = ax^2 + 2bxy + cy^2$

2次形式の行列表現  $x^T Ax$

$$f(x, y) = ax^2 + 2bxy + cy^2 = \begin{bmatrix} x & y \end{bmatrix} \begin{bmatrix} a & b \\ b & c \end{bmatrix} \begin{bmatrix} x \\ y \end{bmatrix} = x^T Ax$$

4

## 対称行列と2次形式

対称行列:  $A = A^T$  を満たす正方行列

- 例:  $A = \begin{bmatrix} x & a & b \\ a & y & c \\ b & c & z \end{bmatrix}$

- 特に,  $A \in \mathbb{R}^{M \times M}$  のとき実対称行列とよぶ

**定理:** 行列  $A$  を実対称行列とすると任意の2次形式は  $f(x) = x^T A x$  と表現でき, その実対称行列  $A$  はただ1つに定まる

**定理:** 実対称行列の異なる固有値に対する固有ベクトルは直交する

5

## 2次形式と行列の定値性

零ベクトル以外の任意の  $x$  について次の条件を満たすとき, 対称行列  $A$  を次のように呼ぶ

- $x^T A x > 0$  のとき,  $A$  は正定値行列
- $x^T A x \geq 0$  のとき,  $A$  は半正定値行列
- $x^T A x \leq 0$  のとき,  $A$  は半負定値行列
- $x^T A x < 0$  のとき,  $A$  は負定値行列

**定理:** 対称行列  $A$  が半正定値行列のとき,  $A$  のすべての固有値は非負の値をとる

- 正定値行列のときは, すべての固有値は正の値
- 半負定値行列のときは, すべての固有値は非正の値
- 負定値行列のときは, すべての固有値は負の値

6

## 制約付き最適化問題の性質

制約無し最適化問題の解との関係

制約付き最大化問題の解  $f(a_1, \dots, a_N)$

制約無し最大化問題の解  $f(b_1, \dots, b_N)$

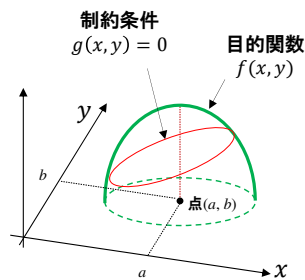
-  $f(a_1, \dots, a_N) \leq f(b_1, \dots, b_N)$

具体例

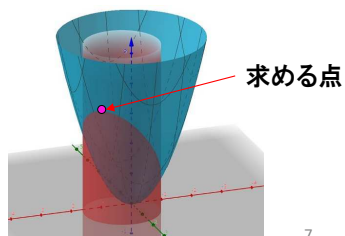
-  $\max_{x,y} x^2 + y^2$

- s. t.  $x^2 + y^2 - x - y - 1 = 0$

制約無しの場合  $x^2 + y^2$  の最大化は  $\infty$   
制約付きの場合は解あり



制約付き最適化問題では点  $(a,b)$  が最適点ではない



7

## ラグランジュ未定乗数法

目的関数  $f(x_1, \dots, x_N)$

制約条件  $g(x_1, \dots, x_N) = 0$

ラグランジュ関数  $L = f(x_1, \dots, x_N) - \lambda g(x_1, \dots, x_N)$

- ラグランジュ乗数:  $\lambda \in \mathbb{R}$
- $f, g$  は一階微分可能
- $\frac{\partial L(a_1, \dots, a_N)}{\partial x_i}$  は  $L$  を  $x_i$  で偏微分し, その後  $(a_1, \dots, a_N)$  を代入を表記

制約条件を満たす  $f(x_1, \dots, x_N)$  が点  $(a_1, \dots, a_N)$  で極値をとり, かつ,  $\left[ \frac{\partial g(a_1, \dots, a_N)}{\partial x_1}, \dots, \frac{\partial g(a_1, \dots, a_N)}{\partial x_N} \right]^T \neq 0$  ならば

$$\Rightarrow \frac{\partial L(a_1, \dots, a_N)}{\partial x_1} = \dots = \frac{\partial L(a_1, \dots, a_N)}{\partial x_N} = \frac{\partial L(a_1, \dots, a_N)}{\partial \lambda} = 0$$

$f(x_1, \dots, x_N)$  が制約条件の下で極値となるための必要条件

8

## 2次形式の最適化問題と固有値問題

### 目的関数が2次形式の制約付き最適化問題

目的関数  $x^T Ax$

制約条件  $x^T x = 1$

- 固有値問題に帰着する check!

**定理:**  $A$  が半正定値対称行列のとき、最も大きな(小さな)値をもつ固有値に対する固有ベクトルが  $x^T Ax$  を最大(最小)とし、その固有値の値は  $x^T Ax$  に一致する

## 分散共分散行列

### 分散共分散行列 $V$

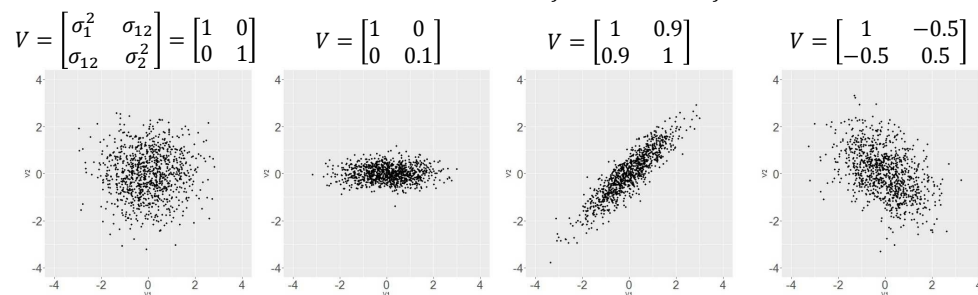
#メモ 図のデータは分散共分散行列  $V$  の多変量正規分布から1000個の乱数を発生

- $x_1, \dots, x_M$  を確率変数, 期待値を  $E$  で表すとき、

$$V = \begin{bmatrix} E[(x_1 - E[x_1])(x_1 - E[x_1])] & \dots & E[(x_M - E[x_M])(x_1 - E[x_1])] \\ \vdots & \ddots & \vdots \\ E[(x_M - E[x_M])(x_1 - E[x_1])] & \dots & E[(x_M - E[x_M])(x_M - E[x_M])] \end{bmatrix}$$

対角成分は各  $x_i$  の分散( $\sigma_i^2$ )

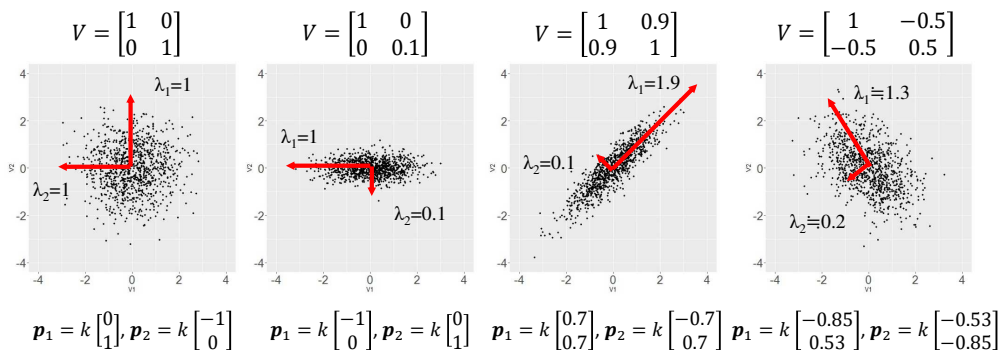
対角成分以外の要素は各  $x_i$  と  $x_j$  の共分散( $\sigma_{ij}$ )(変数間の線形関係の強さを表す)



## 分散共分散行列と固有値問題

### 分散共分散行列 $V$ は半正定値対称行列

- 各固有ベクトルは直交する



- $V$  の最大固有値に対応する固有ベクトルは、データと直線のズレの2乗の期待値を最小にする直線と同じ方向を向く

## 演習問題

1. 対称行列  $A = \begin{bmatrix} 3 & 1 \\ 1 & 3 \end{bmatrix}$  に関する次の2次形式の制約付き最適化問題を解き、 $x^T Ax$  を最大化するベクトル  $x_1$  と最小化するベクトル  $x_2$  をそれぞれ求めなさい。

- 目的関数  $x^T Ax$
- 制約条件  $x^T x = 1$